



Blizzard of Ozz

オジー・オスポーントプリサード・オブ・オズ〜血塗られた英雄伝説〜

SHINKE MUSIC PUB CO LTD

Contents

I DON'T KNOW ► 5

[BL

CRAZY TRAIN 20

GOODBYE TO ROMANCE 32

DEE ► 40

SUICIDE SOLUTION ▶ 42 自殺志願

MR. CROWLEY ▶ 54 ミスター・クロウリー(死の番人)

NO BONE MOVIES ► 66

REVELATION(MOTHER EARTH) > 78 天の黙示

STEAL AWAY(THE NIGHT) ▶ 94 スティール・アウェイ

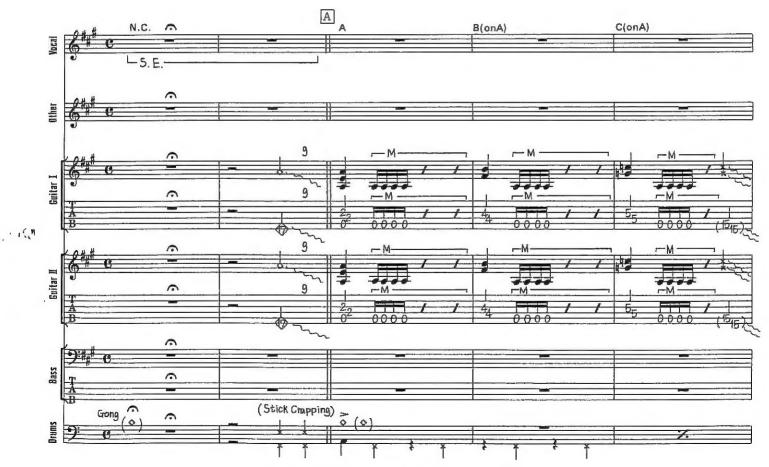
## I DON'T KNOW

アイ・ドント・ノウ

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

「79年にブラック・サバスを脱退したオジー・オズボーンは、元レインボーのボブ・ディズリー(B)、元ユーライア・ヒープのリー・カースレイク(Dr)、元クワイエット・ライオットのランディ・ローズ(G)と共に、80年アルバム「ブリザード・オブ・オズ」を発表し、ソロ活動、というよりも自己のバンドとしての活動の第1歩を歩み始めた。そしてこの曲はそのアルバムの記念すべきオープニング・ナンバーとして、現在も尚、オジーのステージの重要なレパートリーとなっている。また、このアルバムによって、ランディ・ローズはその才能を開花させ、数々の名曲が生み出された。ギターだが、国のリフは5弦開放のA音をペダル・ポイントとしている。右手をブリッジにあてるミュートをして攻撃的なサウンドにしよう。国4小節目にでてくるクォーター・チョーキングは、半音より下のチョーキングである。CD

等で微妙な音程を確認して、チョーキング・ポイントを探そう。 ⑥はクリーン・トーンのサウンドだ。Gt.2では、3連符等速弾き っぽいフレーズがあるので、正確なビッキング&フィンガリン グが必要だ。 ランディは割と規則的なフレージングを活用する ので、指使いは難しくないと思う。図はソロだ。5、6小節目の トリルはアーミングを交えてみると、 ランディっぽい音になる ので試してみよう。 (決してヴァイのようにウネウネアーミン グしてはいけない。) ①1小節目の上行フレーズは規則的なので、 滑らかなフィンガリングが求められるので、注意。5小節目から の下行の横移動は、ラフにピッキングして勢いよくいこう。図8 小節目のオブリは雰囲気で弾こう。 ランディはオブリをいれる クセがあるので、諸君も真似してみよう。ベースはタイトに。



© 1980 by BLIZZARD MUSIC LIMITED Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

























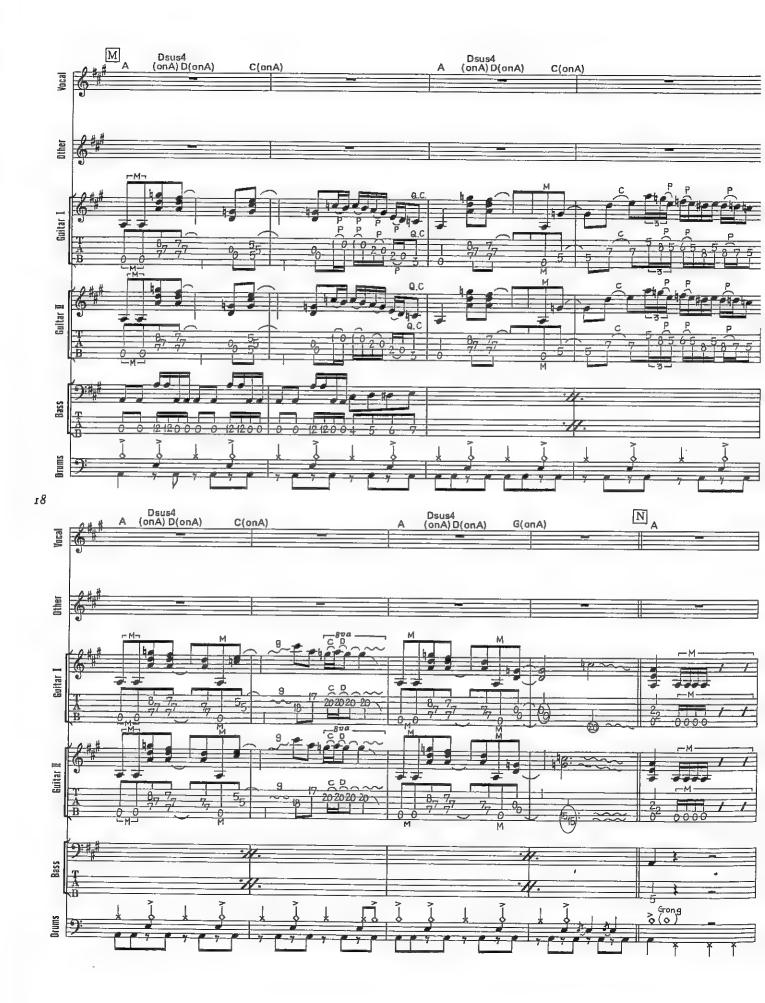


















クレイジー・トレイン

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

オドロオドロしいイントロから一転してメチャ明るいリフへ移る、いかにもランディらしいギターが聴けるゴキゲンなナンバーだ。 ②のメイン・リフは少し強めにピッキングしよう。 图からのバッキングは5弦開放をミュートしてドライブ感を出そう。ランディのサウンドは基本的にかなりディストーションを掛けているので、開放弦の16分音符の連続フレーズはミュートをしないと、単なるノイズになってしまうので、気をつけよう。 ②7、9小節目にハーモニクスがあるが、これは正確に出すのではなく、カッコイイ味つけとしてラフにガーンと弾こう。 国からはソロだ。トリルからライトハンド・プレイへ素早く移行する美しいフレーズから始まる。全体的にクラシックの香りが漂う、名フレーズだ。テクニック的には、トリルなどのフィンガ

リング中心のソロだ。スピーディーではあるが規則的なフレーズばかりなので、必ずやマスターできるはずであるので、がんばって練習してほしい。ランディのソロはかなり計算されているので、音楽的にも高く、ギター以外の音楽理論などにも役立つと思うので、よく研究してほしい。ベースだが、シンブルであるが、要所要所をタイトに弾いている。常にリズム・キーブの役割をしているので、かえって難しいかもしれない。少しでもリズムが狂ってしまうと、この曲の緊張感がなくなってしまうので、気を付けよう。ドラムに関しても同様なことが言える。ハデなオカズは入らないが、徹底的なリズム・キーブは絶対条件なので、気を緩めずタイトな演奏をすることを心掛けよう。



© 1980 by BLIZZARD MUSIC LIMPTED Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.





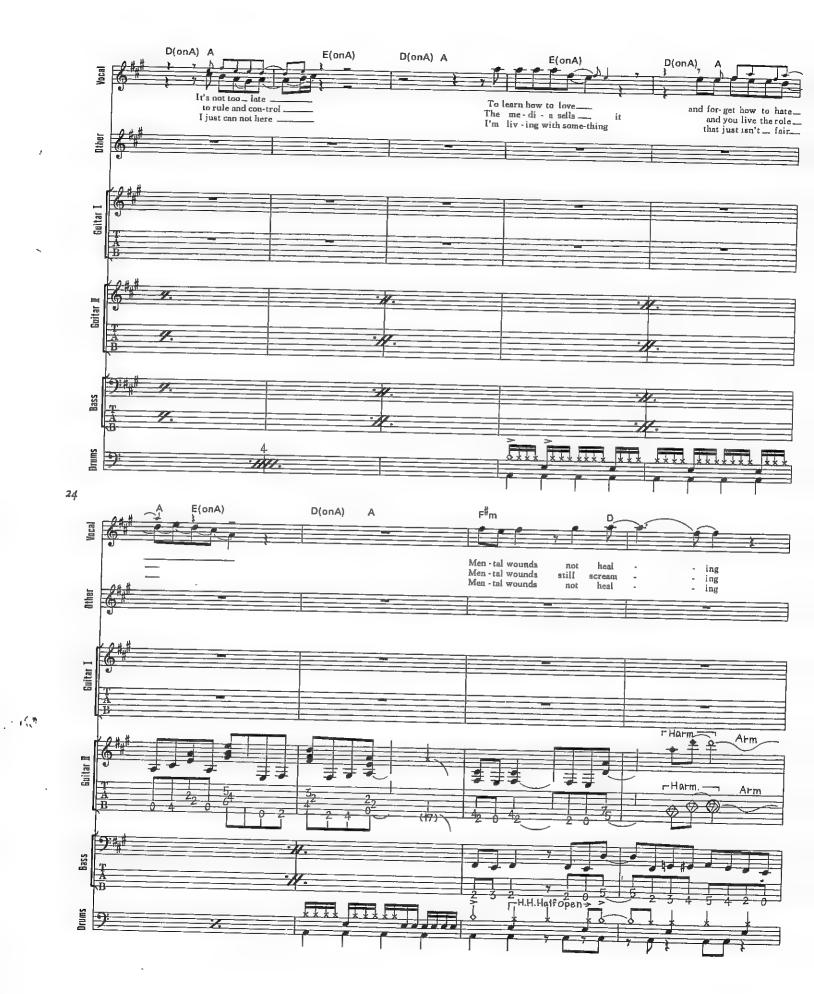






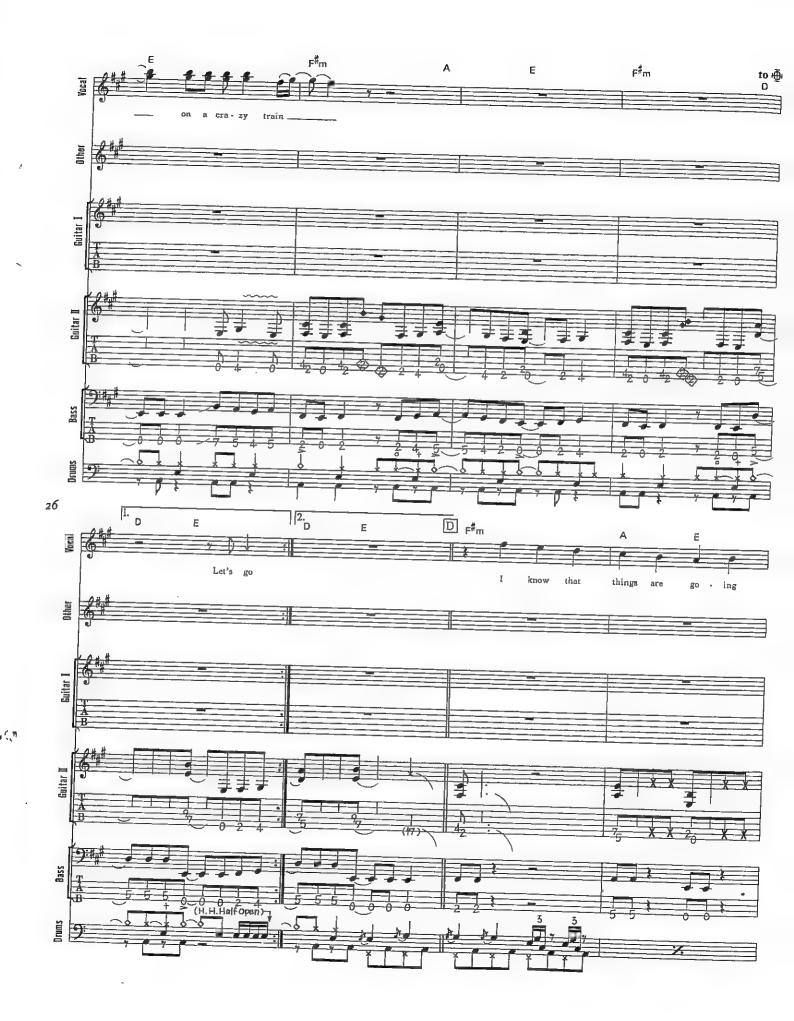
mi min, mus min

N N















· (Ç







i Çn



## **GOODBYE TO ROMANCE**

グッパイ・トゥ・ロマンス

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

オジー・オズボーン独特の味のあるパラード・ナンバーだ。この曲では、オーバーダピングによって何本ものギターが重ねられている。スペースの都合上、Gt.1、Gt.2の2本にまとめてあるが、Gt.2はエレクトリック・ギターが2本、アコースティック・ギターが1本の、合計3本のギターによるユニゾン・プレイだ。Gt.1もソロとバッキングのオブリとは別のギターであるが、これはエフェクターなどを使って、ディストーション・サウンドとクリーン・トーンを切り替えれば、大丈夫だろう。 国からのバッキングはアルペジオ・プレイだ。 ランディはクラシックの要素をふんだんに取り入れているので、通常とは少し異なったコードの押さえ方をしている。あまり使われないコード・フォームであるが、音楽理論上、最も美しい響きと思われる押さえ方をしていると思うので、チェックしておこう。また、ラン

ディのスタイルはあくまでもクラシックなので、左手の指を立てて他の弦で弾いた音をミュートしてしまわないように気をつけて弾こう。所々間こえるオブリのフレーズはハンマリングやブリングを使ったレガートなプレイなので、流れるように軽快に弾こう。 国からはギター・ソロだ。派手なポジション移動はないが、これまたレガートなフレーズであるので、流麗にプレイしよう。この曲のテンポ自体がゆっくりめであるので、スピーディーなソロではないが、時折8、9連符が出てくるので、かなり速いプレイとなってしまう。 最初はゆっくりしたテンポで練習して、徐々にテンポを上げていこう。 規則的な運指なので、覚えてしまえばマスターは早いと思う。 ベース、ドラムはバラードであるので、走ったりしないようリズムをキープすることに気をつけてプレイしよう。







垃

つ p

快 ತ

٣

þ で

ラと



Vocal

Othe

Guitat I

Guitar II

ā

Bass

Drums

Vocal

Other

Guitar I

tar II .

Bass

Drums





Ŧ







¥







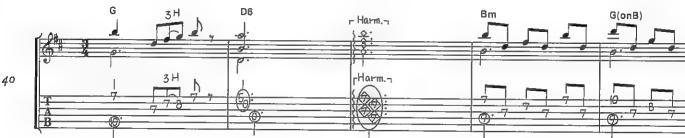


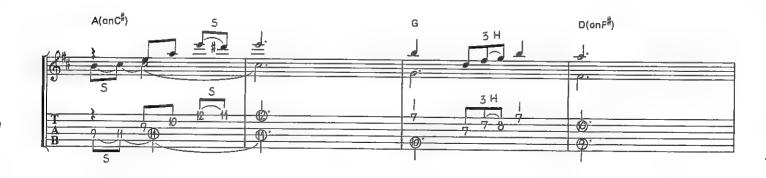
## DEE

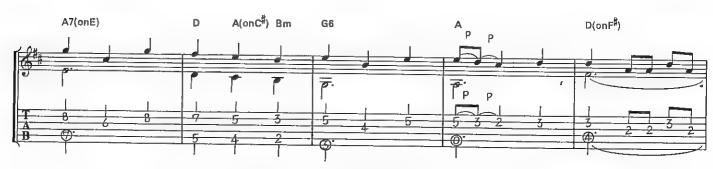
Music by Randy Rhoads

ランディ・ローズによるギター・ソロの曲だ。クラシック・ギ ターを熱心に練習していた彼の奏でるメロディーがとても美しい 曲だ。この曲では、コードの押さえ方は完全にクラシック・スタ イルにしてもらいたい。最初のGのコードは、ハイ・ポジション のフォームをそのまま押さえること。タブ譜に書いてあるところ だけを押さえても構わないが、本格的なクラシックの押さえ方で プレイする方が、ランディのスタイルであるので、是非チャレン ジレてほしい。3小節目のハーモニクスは、基本通りしっかり弾 かないとクリアにでないので気を付けよう。また、低音弦の音が

全音符である場合が多いので、低音弦のフレットを押さえたまま にして、高音弦の音を弾こう。22小節目に若干速いフレーズがあ るが、エレクトリック・ギターの時でもランディがよく使うフレ ーズであるので、問題はないはずだ。23、25小節目のフレーズは 流れるように弾こう。スライド気味にポジション移動をして、ス ムーズに弾きこなそう。クラシック・ギターを弾いたこともない 諸君は大変であると思うが、この曲をマスターすれば、多少なりと もクラシックのニュアンスを掴むことができるので、必ずマスタ ーしてもらいたい。







 ${\mathbin{\mathbb O}}$  1980 by ESSEX MUSIC INTERNATIONAL, INC., New York, N.Y., U.S.A. Rights for Japan controlled by TRO Essex Japan Ltd., Tokyo



## SUICIDE SOLUTION

自殺志願

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

ミディアム・テンポの少しへヴィーな曲だ。ギターのグリッサンド音からこの曲はスタートしているが、ここはピック・スクラッチを使ってもよいだろう。イントロから弾かれているギターのリフは、2本重ねてオーバーダビングされているものだ。これは、ほとんどユニソンによる演奏だがときどき違ったフレーズを弾いているので気を付けてもらいたい。リフとしては決して難しいものではないが単音とコードが入り乱れており、動きの激しいものとなっているので、力強いピッキングで正確にプレイしてもらいたい。この曲ではキーボードとしてオルガンも弾かれている。これはシンプルにコード弾きを行っているものだが、リズムをしっかりとギター等と合わせ、又音量を控えめにして邪魔にならない

演奏を心掛けるようにしよう。ギターは時々アームを使ってプレイしているようだが、これはあまり音程の変化が激しいものではないので、アームのついていないギターではネックを押し曲げるようにする、ネック・ベンドのテクニックを使って弾いてもよいだろう。国の11小節目で行われているスウィッチングのテクニックはピックアップのスウィッチを切り替えることで、音を断続的に鳴らすテクニックだ。ここは4分音符のリズムに合わせてスウィッチングしよう。ベースやドラムはシンブルなパターンを多くプレイしているようだ。どちらも力強い演奏をするようにしたい。ベースは8分音符をレガートではなく、少しスタッカート気味にして、歯切れの良いリズムで弾くとよいだろう。



© 1980 by ESSEX MUSIC INTERNATIONAL, INC., New York, N.Y., U.S.A. and BLIZZARD MUSIC LTD., London, England Rights for Japan jointly controlled by TRO Essex Japan Ltd. and Watanebe Music Publishing Co., Ltd., Tokyo

Bass

Vocal

Other

Guitar I

Guitar II

É







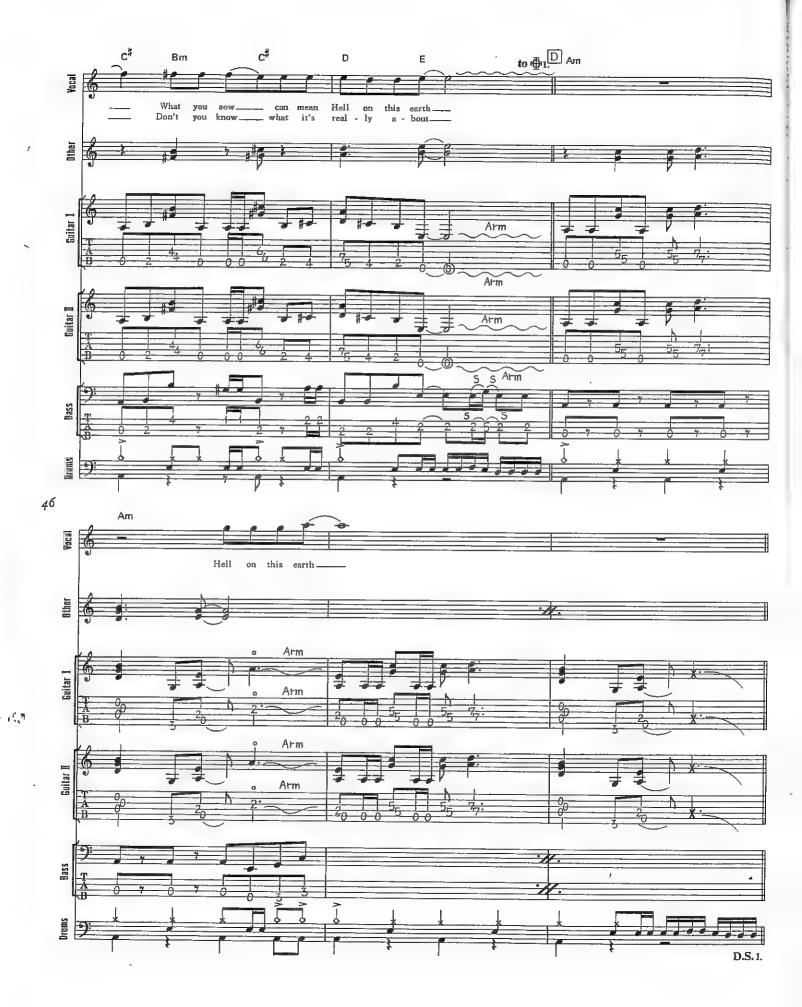
:





1

- 1





 $\exists$ 

.S.1.



.







...





Yocal

Other

Guitar I

Guitat I

Mack

Shrupanin (\*)

Bernall Barnell



## MR. CROWLEY

ミスター・クロウリー(死の番人)

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

荘厳なキーボードのフレーズが聴くもののテンションを高めていく、このアルバム屈指の名曲だ。キーボードは最低3本弾かれているので、メインに聞こえるパートを選択してプレイするのが賢明だろう。キーボードのいないバンドはここをカットして、前の曲とつなげていきなり入るという方法を取ると良いだろう。国から全パートが出てくる。ギターについてだが、かなり横移動の激しいポジショニングになっている。 実際はDmをロー・コードで押さえているかもしれないが、この方がライヴでは見栄えが良いのでガツンとプレイしよう。所々に入るオブリガートはフィンガリングを滑らかにしたプレイなので、やわらかいピッキングで。回からはソロだ。シーケンスをうまく使った激しいフレーズだ。指使いは前半はペンタトニック・スケールが中心だ。10、12、13フレットのみだから、変に完コピ

するよりもラフにアドリブっぽく弾いてみても良いだろう。後半のシーケンスのソロは熱くプレイして盛り上がろう。回からのソロは、クラシカルなシーケンス・フレーズから始まるこの曲最大のヤマ場だ。メロディアスなフレーズを覚えたい錯君にはとても勉強になるので、マスターしておこう。いかにもランディっぽいトリルの使い方や、レガートな上行フレーズなど、ランディのギターをマスターする上で必要なおいしいエッセンスがたっぷりなソロだ。速いパッセージなのだが、フル・ピッキングではないので、スムーズなフィンガリングをすれば大丈夫だ。最初はゆっくりめなスピードで、慣れてきたら普通の遠さで弾くようにしよう。ベース、ドラムはリズム・キープも大切だが、盛り上がる箇所では、力強くメリハリを付けた演奏をするよう心掛けよう。



© 1980 by BLIZZARD MUSIC LIMITED Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD.





惠大

き



Other Guitar I

Guitar II

Bass

Yocal

Other

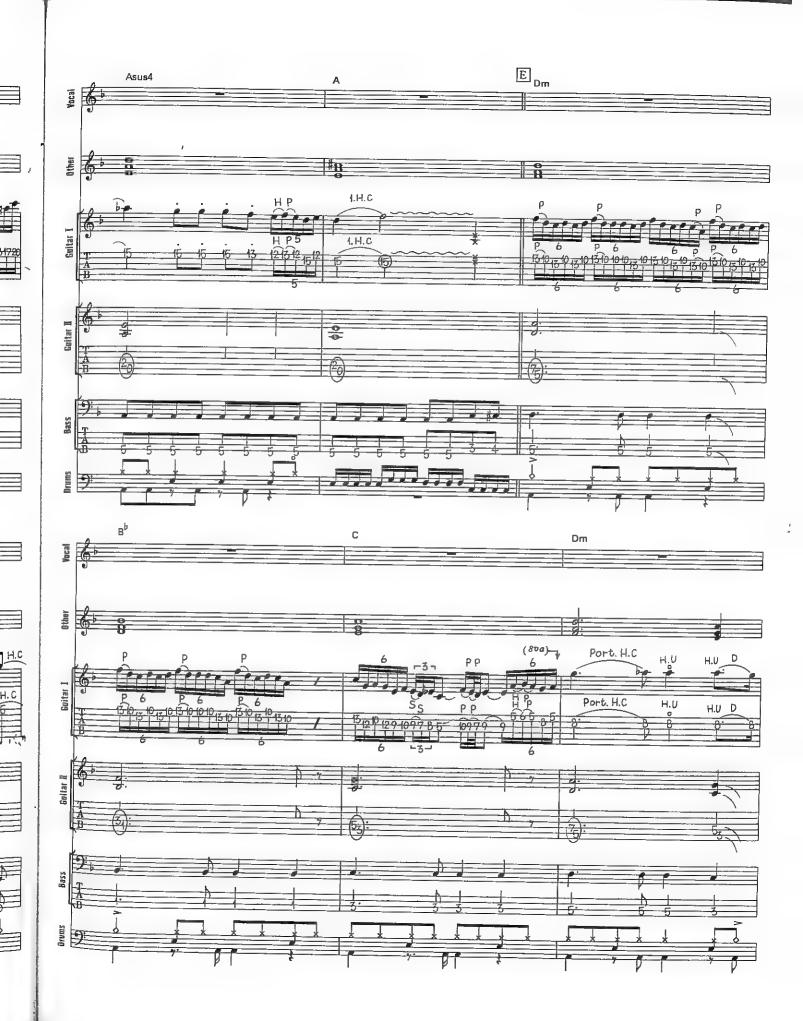
Raitar I





1111 11111



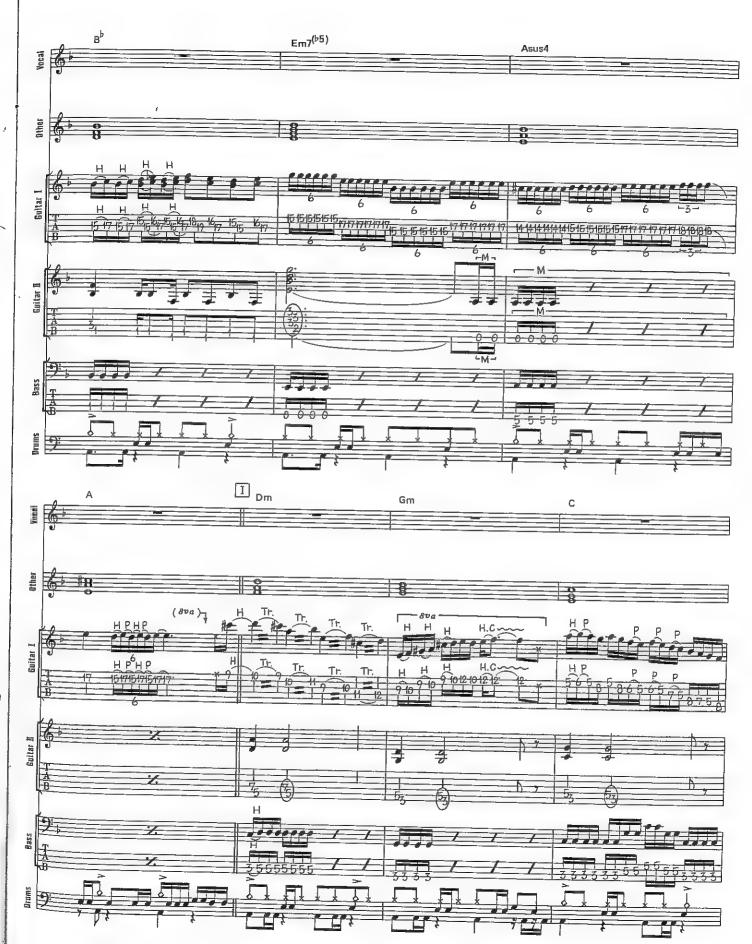






D.S.







Other Guitar I

Guitar II

Yocal

Guitar J

Guitar II

Bass

Drums



## **NO BONE MOVIES**

ノー・ボーン・ムービーズ

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley, Randy Rhoads and Lee Kerslake

この曲でも、イントロ等のギターのリフは、2本のギターによるユニソンでのプレイだ。これはオーバーダビングで重ねられているものだが、譜面では1本にまとめて書かれているので注意してもらいたい。イントロの5小節目などでは2本が、違ったパターンを弾いている部分もあるので気を付けよう。イントロの2小節目、ギターの譜面にX印で書かれた音があるが、これは弦をミュートしながらピッキングしているものだ。この曲のリズムはミディアム・テンポの8ビートだ。ペースやドラムは比較的シンプルで演奏しやすいフレーズが多いが、リズムが乱れないように正確に、又力強くプレイしよう。©の部分はギター・ソロになっている。ここでソロを弾いているGt2は、ボトルネック奏法を行っている。これは左手の小指などにボトルネック・バーを付けて、スライ

ド奏法を行っているものだ。ボトルネック奏法は、オーブン・チューニングで行うことが多いが、この曲ではノーマルなチューニングでよいだろう。ディストーションさせたサウンドに少しディレイも掛けてプレイすると良いだろう。Gt2は、回からエンディングにかけてもソロを弾いている。ここはチョーキングを多用してゆったりとしたフレーズを弾いているものだ。 速弾きなど行っていないので、弾きやすいソロではあるが、チョーキングの音程に気を付けて、一つ一つの音を丁寧に弾いてもらいたい。この曲の一番最後のエンディング部分では、少しスピードの速いフィルイン・フレーズも弾かれている。ここでは、もう1本別のギターもオーバーダビングで重ねられており、3本のギターによる演奏だ。

Yocal

Other

Guitar I

Guitar

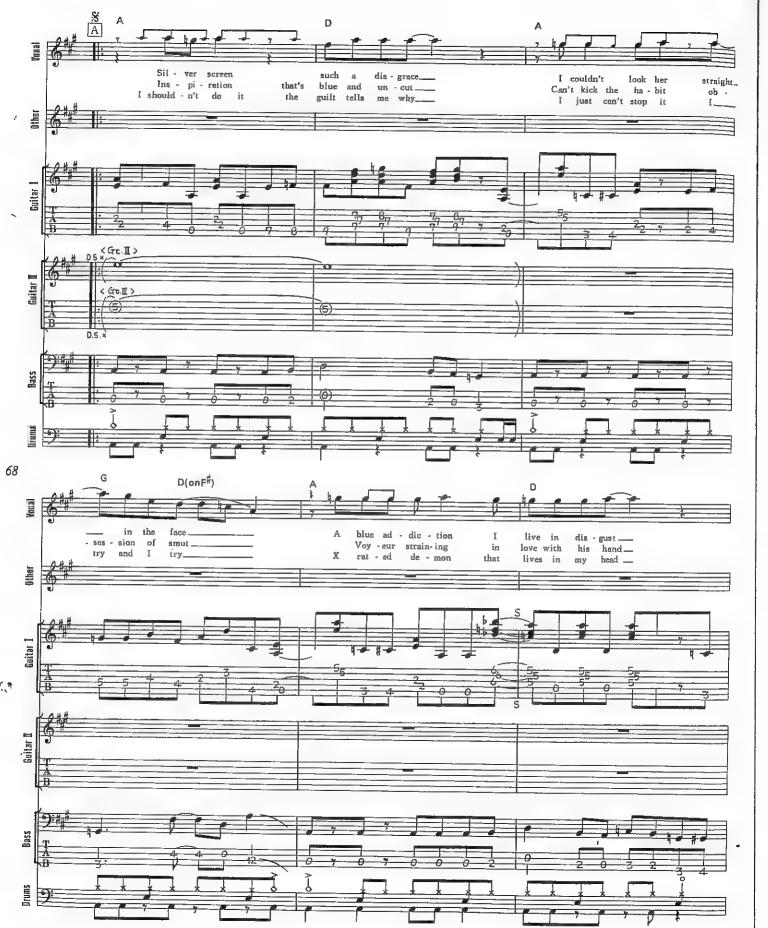
ocal



© 1980 by ESSEX MUSIC INTERNATIONAL, INC., New York, N.Y., U.S.A. and BLIZZARD MUSIC LTD., London, England Rights for Japan jointly controlled by TRO Essex Japan Ltd. and Watansbe Music Publishing Co., Ltd., Tokyo

TITE TITE THE

Bass



Yocal

Other

Buitar I

Goitar

Bass

H100mg

Voral

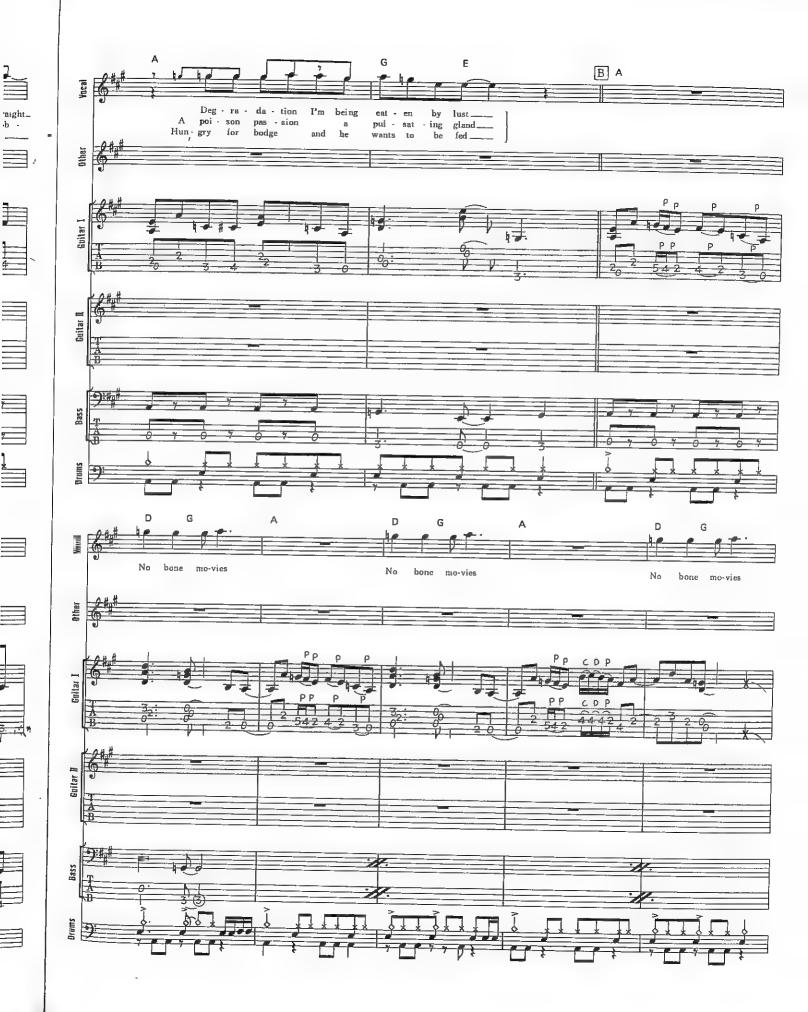
Other

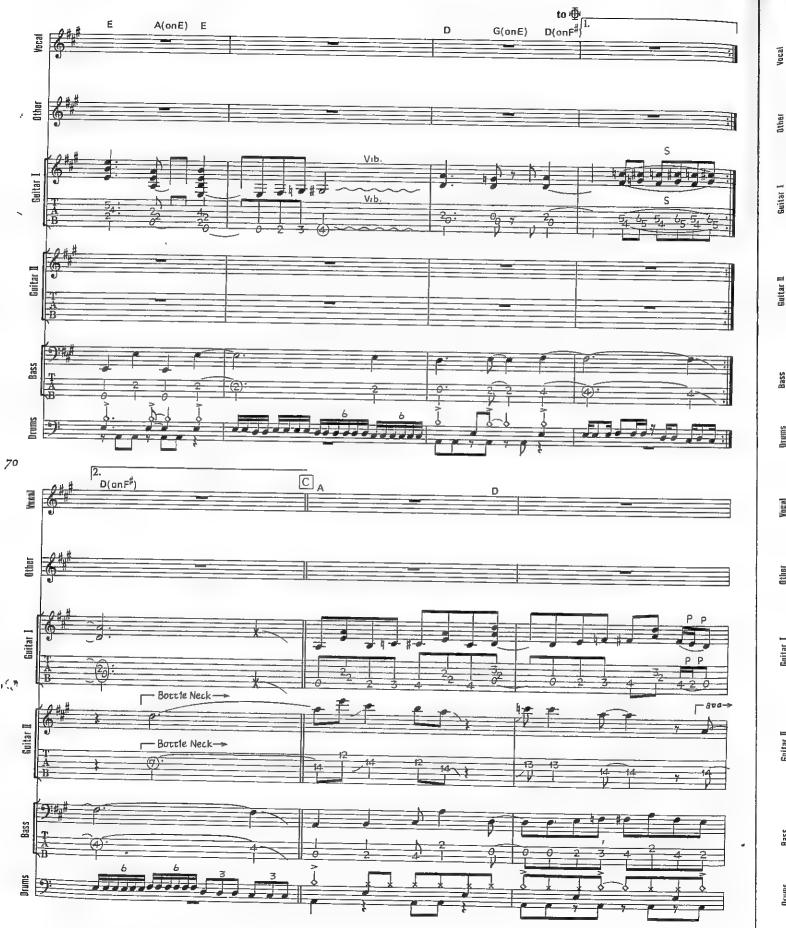
Guitar I

Gnitar II

Hate

Braisis





Vocal

Suitar I

Guitar I

Bass

Orums

Other

000

Gaitar I

Goitar II

Bass

Drums





Yocal

Other

Guitar I

Guitar II

Bas

Птить

Vacal

Othur

Bulbar F

to

£





Vocal

Other

Buitar I

Guitar II

Bass

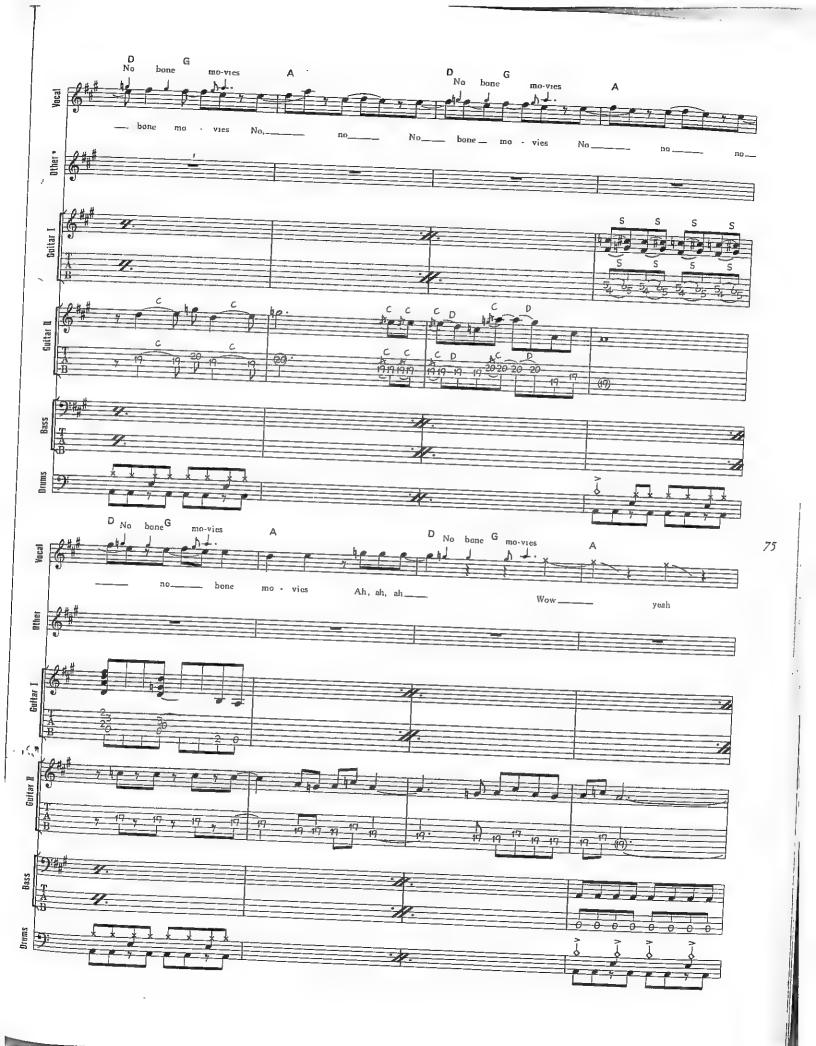
Drums

Vneal

Other

P ... 3

: (





9 14 4

;

:

•



## **REVELATION**(MOTHER EARTH

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

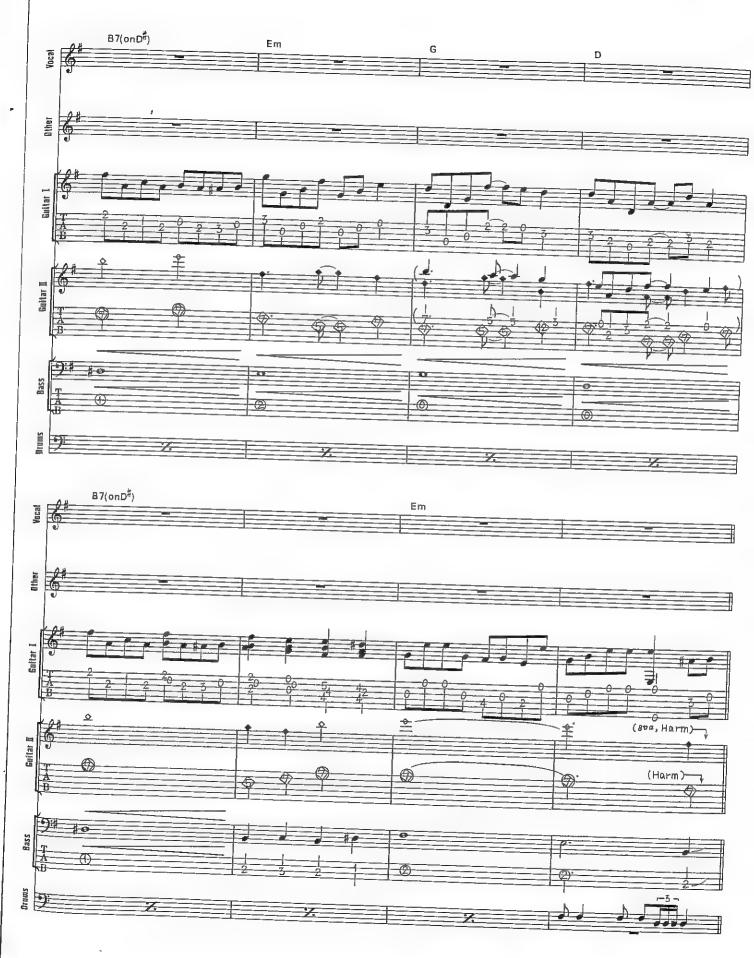
この曲はちょっとした大曲でありいくつかのパートに分けて演 奏されている。使われている楽器もキーボードやギターは複数の ものがオーバーダビングで重ねられている。国から国にかけては アコースティック・ギターが弾かれている。これも2本がユニソ ンで重ねられているようだ。ここは、アルペジオ奏法でプレイす るようにしよう。この部分、Gt2はエレクトリック・ギターによ るハーモニクス奏法だ。これは、タブ譜の位置の弦を左手の指 で軽く触るようにしながらピッキングしているものだ。効果的 なフレーズだが、クリアなサウンドで、丁寧にプレイしたい。 国 の部分のベースは、 ヴァイオリン奏法のようにヴォリュームを コントロールしながら弾いているようだ。 ここは、ヴォリュー ム・ペダルを使うと良いだろう。 回からはGt1もエレクトリッ ク・ギターが使われている。この部分のベースは2音を使ったフ

レージングになっている。ここは、音がばらつかないようにしっ かりとプレイしてもらいたい。 2回目の回ではボコーダーにょ るフレーズが入れられているが、 譜面ではこれをGt2のパート に入れておいたので、ギターを使ってトライしても良いだろう。 トーキング・モジュレーターなどのエフェクターを使えば周様 のサウンドを出すことができるはずだ。国はピアノのソロが弾 かれている。ピアノの他シンセも重ねられているが、これはど れもストリングス系のサウンドを使ったものだ。回からは、ギ ター・ソロとなっている。このソロは、2本のギターがユニソン で重ねられているが、まるで1本で弾いているように正確にプレ イされている。このソロではかなり速いフレーズも弾かれてい るが、ハンマリングやプリングなどのテクニックをうまく使っ て正確なリズムでプレイするようにしょう。

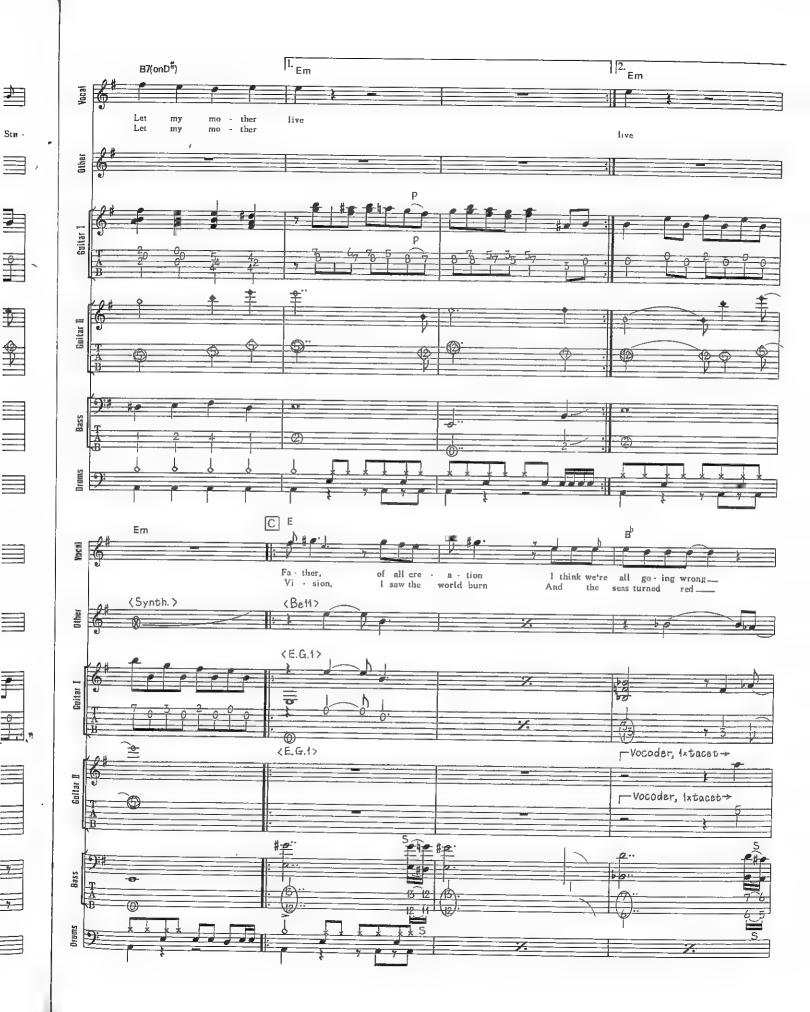
Voral



ろう。 司様 まど . # プレ てい 使っ 































Ŧ

9.

## STEAL AWAY(THE NIGHT)

スティール・アウェイ

Words & Music by Ozzy Osbourne, Bob Daisley and Randy Rhoads

R&R色の濃いアップ・テンポのハード・ドライヴィン・ナンバーだ。イントロのギターのリフはとても変わったパターンのものだ。ここは、こじんまりと弾くのではなく、指がパタバタするくらいダイナミックにプレイしよう。 正確さを求めるとノリがうまく表現できないので、ラフにバンチの効いたプレイをした方が、カッコイイはずだ。 国からのバッキングでも言えることだが、シングル・ノートの部分がアクセントになっているリフであるので、シングル・ノートのフレーズはタイトにプレイしよう。 国で出てくるオクタープ奏法は、4弦を左手人差指でミュートしよう。 国からのギター・ソロはアップ・テンポで、かなりスピーディーだ。3連符のフレーズでは正確なピッキングが要求され、16分のレガートなフレーズではスムーズなフィンガリングが求められるという、かなり計算された繊細かつ緻密な

ソロだ。また、ポルタメントのチョーキングや攻撃的なピッキング・ハーモニクスなどランディらしいテクニックが随所に見られるソロでもある。速いフレーズではあるが、決して弾けないと言うほどのテクニックではないので、マスターできると思う。ノリをうまくつかむことが大切だ。ギターの最後のコードE7(#9)は、ジミヘンがよく使うコードであるので、是非覚えておこう。ペースについてだが、単なるルート弾きではなく、かなりとんだフレーズが出てくる。アクセントとして、グリスをうまく使うとライヴなどで映えると思う。また、フィル・インにばかり気を取られていると、肝心なリズム・キーブが疎かになってしまうので、タイミングには気をつけよう。ドラムに関しては、この曲のノリをリードしていく立場を認識して、イニシアチブをとった堂々たるドラミングをしよう。



© 1980 by ESSEX MUSIC INTERNATIONAL, INC., New York, N.Y., U.S.A. and BLIZZARD MUSIC LTD., London, England Rights for Japan jointly controlled by TRO Essex Japan Ltd. and Watanabe Music Publishing Co., Ltd., Tokyo





















IOI



